



平成27年度科学技術週間における「電子基準点」の見学の様子

CONTENTS

1. 平成27年度国土地理院業務概要	2
2. 国土地理院ウェブ地図「地理院地図」に写真を追加 －戦後の国土の変遷を空中写真でたどれるサービスを開始－	7
3. G空間EXPO2015の開催が正式に決定しました！ －Geoアクティビティフェスタの応募方法－	8
4. 全ての地方測量部等において、全国の測量成果等の閲覧・謄抄本交付を開始 －地方測量部等においても旧版地図の抄本交付が可能に－	8
5. 「測量の日」関連行事を全国各地で開催	9
6. 平成27年度（第56回）科学技術週間報告	10
7. 4月の報道発表・6月の主な行事予定	10

企画部

企画部は、利用者にとって価値ある利用しやすい地理空間情報を提供し、国民生活の向上及び国民経済の健全な発展に貢献するため、地理空間情報の活用推進、国際活動、防災等に関する施策等を着実に実施します。

1. 測量等に関する基本施策の企画・推進

- (1) 基本測量長期計画及び研究開発基本計画を推進します。
- (2) 最新の測量技術やマネジメント能力を備えた測量技術者の確保・養成のあり方について検討します。

2. 地理空間情報の活用推進

- (1) 地理空間情報活用推進基本計画の着実な推進を図ります。
- (2) 11月に開催予定のG空間E X P Oの企画運営を行うとともに、国土交通省の一員としてGeo アクティビティフェスタ等を実施します。

3. 地理空間情報及び測量技術等の標準化の推進

- (1) 実利用が可能となった新技術を作業規程の準則に規定するため、改正に向けた検討を行います。
- (2) 測量成果の品質確保及び公平性・透明性の観点から「総合評価落札方式」等における、技術

評価基準等について、必要に応じた見直しを行います。

4. 測量行政の推進

測量計画機関等に対する説明会や、計画書に対する助言等の機会を捉えて、スマート・サーベイ・プロジェクト（SSP）の普及啓発を図ります。

5. 国際活動の積極的な取組

日本の技術を海外に普及させるため、官民意見交換会や調査等を実施し、総合的な海外展開を進めます。

6. 防災対策の推進

- (1) 防災関係機関と密接な連携を図ります。また、指定地方行政機関に指定された地方測量部等との連携調整を図り、防災業務を適時、的確に実施します。
- (2) 国土交通省で運用する電子防災情報システムの支援を実施します。

測地部

測地部は、国民が安心して豊かな生活を営むことができる経済社会を実現するために、人工衛星による測位環境が向上している情勢を踏まえて位置情報基盤を整備・提供します。また、国土調査において地籍の明確化を図るために必要な基準点測量を実施します。

地殻変動の監視では、電子基準点を補間する観測を実施し、防災や減災に努めます。

1. 位置情報基盤の整備・提供

- (1) VLBIによる測量、水準点の測量、離島の基準点整備、復旧測量等を実施し、正確な位置の基準（緯度、経度、標高）を提供します。また、位置の基準の維持に必要なセミ・ダイナミック補正を行うための地殻変動パラメータを提供します。
- (2) 場所情報コードを活用した新しい位置情報基

盤の構築を推進します。

- (3) 公共測量業務の効率化を図るために公表した公共測量作業マニュアルの利用を促進します。

2. 災害軽減のための地殻変動監視の推進

- (1) 巨大地震発生の可能性の高い地域、地殻活動の活発な地域、活動的火山地域において地殻変動を監視するための測量を実施します。

(2) アジア太平洋地域における防災・減災に資するため、同地域の関係諸国との協働による地殻変動監視を促進します。

3. グローバルな測地測量の推進

- (1) 国際地球基準座標系と地球姿勢パラメータを高精度に決定するために、国際的な VLBI 観測を実施します。また、次世代の国際的な VLBI 観測計画に向けた施設整備を行います。
- (2) 南極地域観測第Ⅷ期計画（H22～H27）に基づき、南極地域において測地観測を実施します。

4. 地球物理観測の強化

- (1) 島しょ部のジオイド・モデル「日本のジオイド2011」を整備するための測量を実施します。
- (2) 日本全国の地磁気分布と重力分布、それらの経年変化の把握のために、地磁気測量と重力測量を実施します。

5. 地籍調査のための測量

地籍調査に必要な基準点測量（四等三角点の設置及び DID ※の周辺部への補助基準点の設

置）を地方公共団体の要望に基づき全国で実施します。

6. 研究開発

- (1) 位置の基準を正確に維持するために、次世代 VLBI 観測に関する研究開発、基線場におけるトレーサビリティの調査研究、重力基準網の高度化に関する研究等を実施します。
- (2) 干渉 SAR 技術による、地殻変動等の監視の高度化、地盤沈下や地すべりの監視の効率化に関する研究開発を実施します。
- (3) 火山地域の地殻変動を監視する REGMOS（GNSS 火山変動リモート観測装置）や自動測距測角装置の高度化に関する研究を実施します。
- (4) 3次元地理空間情報を活用した安全・安心・快適な社会実現のために、屋内外の測位情報のシームレス化に関する技術開発と屋内測位の向上に関する技術開発を実施します。

※ DID とは、人口集中地区（Densely Inhabited District）のこと。

地理空間情報部

地理空間情報部は、多様な地理空間情報を誰もが容易に検索・入手・利用を可能とする地理空間情報ライブラリーの運用・改良を行うとともに、地理空間情報の基礎となる地図情報等を広く安定的に提供するための取り組み等を行います。

1. 地理空間情報ライブラリーの運用の推進

- (1) 地理院地図の運用、地理院タイルの提供、地理院地図パートナーネットワークの運営、ベクトルタイル提供実験を実施します。
- (2) 地理空間情報ライブラリーコンテンツの拡充とサイト等システムの運用及び改良を実施します。
- (3) 基準点、地図及び空中写真等の登録・管理、閲覧・謄抄本交付を行います。また、基準点成果等閲覧サービス、地図・空中写真閲覧サービスの管理・運用を行います。

2. 産学官における連携・協力

- (1) 国・地方公共団体等における電子国土基本図

を中心とした地理空間情報の効果的・効率的な活用を促進するため、国土地理院プロダクツのプロモーション活動を継続して取り組むとともに、地理空間情報の相互活用の促進を図ります。

- (2) 地理空間情報の活用を促進するため、パートナーネットワーク等を通じて、産学官の連携強化を図ります。

3. 国土地理院行政情報システム維持管理及び情報セキュリティ対策

- (1) 共同利用電子計算機システムの管理・更改を実施します。
- (2) ネットワークの監視、サイバー攻撃対応等、情報セキュリティ対策の強化を図ります。

基本図情報部

基本図情報部は、国の基本図に関する社会のニーズを踏まえた事業の実施と情報提供を基本理念とし、電子国土基本図が利用者にとってさらに価値ある使いやすいものとなるようにさらなる改善を図りつつ、電子国土基本図・基盤地図情報の着実な整備・更新・提供を行います。また、これら事業遂行に必要な技術開発を実施します。さらに、測量用航空機「くにかぜⅢ」等による災害対応を通じ、災害時においてニーズを踏まえた現況把握・情報提供を確実かつ迅速に行います。

1. 電子国土基本図（地図情報）の更新

- (1) 道路、建物等位置の基準としての基盤地図情報、及び地形、地名等の国土管理に必要な情報を統合した、新たな国の基本図として、電子国土基本図（地図情報）、及び国土広域情報の円滑な更新を図り、基盤地図情報、電子地形図25000、電子地形図200000、数値地図（国土基本情報）、数値地図（国土基本情報20万）、多色刷2万5千分1地形図（印刷図）等を提供します。
- (2) 都市計画基図等による面的更新を実施します。
- (3) 地方整備局及び都道府県等の公共施設管理者と連携し、新規開通する道路等、公共施設の迅速更新を実施します。

2. 電子国土基本図（正射画像）の整備

都市計画区域及びその周辺において、地方公共団体のニーズも勘案しつつ、空中写真撮影を実施し、正射写真画像を整備・提供します。

3. 電子国土基本図（地名情報）の整備

- (1) 居住地名（小字を含む）、自然地名、離島の名称等の電子国土基本図（地名情報）の整備・更新し提供します。
- (2) 住居表示住所ベクトルデータと信号交差点の名称・位置データ等を整備・更新し提供します。

4. 外国人にわかりやすい地図情報の整備

外国人にわかりやすい地図表現検討会の検討結

果に基づく英語版の地名集を作成します。また、地理院地図の100万分1レベルの英語版を作成し、公開します。

5. 全国都道府県面積調

全国都道府県市区町村別面積調査を実施し、公表します。

6. 人工衛星画像による地図情報整備

人工衛星画像を活用して離島の地図情報を更新します。

7. 「くにかぜⅢ」の運用

- (1) 「くにかぜⅢ」により、甚大な災害時の撮影及び情報提供を行うとともに、関係機関等への情報伝達の迅速化のための訓練を実施します。
- (2) 要望を踏まえた撮影・航空レーザ測量等、機動性のある測量用航空機の運用を行います。

8. 南極観測

南極地域観測第Ⅷ期計画（H22～H27）に基づき整備した3次元地形情報を使用し、南極地形図を作成（更新）及び衛星画像図を更新します。

9. 技術研究開発

- (1) 災害時に「くにかぜⅢ」に搭載するSARから画像を迅速に得るための手法を検討します。
- (2) 将来の基盤地図情報の三次元化に向けた仕様の検討及び活用技術の開発を行います。

応用地理部

応用地理部は、防災対策・危機管理等に資する防災地理調査、国土の環境保全・効果的な利用に資する環境地理調査、地球規模の地理空間情報となる地球地図整備等を行い、これらの地理調査業務によって得られた成果等を速やかに公表・刊行するとともに、ホームページや地理院地図などを通じて幅広く提供します。

1. 防災地理調査

(1) 自然災害基礎情報整備

南海トラフ地震や首都直下地震など巨大地震による被害が想定される地域の脆弱地形調査を実施します。また、火山噴火に伴う被害の想定される地域で火山防災地形調査を行います。

(2) 全国活断層帯情報整備

地震災害が広範囲に及ぶと考えられる主要な活断層帯について、断層の詳細な位置や関連する地形の分布等の情報を整備・提供します。

(3) 治水地形分類図の更新

地方整備局と連携して治水地形分類図の更新を実施するとともに、更新した治水地形分類図は順次ホームページから公開します。

(4) 「国土交通省ハザードマップポータルサイト」の管理・運営及び災害対策図の整備

国土交通省各局や内閣府と協力して設置した全国の各種ハザードマップを一元的に検索・閲覧可能な「国土交通省ハザードマップポータルサイト」の管理・運営を行うとともに、

災害対策図の整備を進めます。

2. 環境地理調査

(1) 国土環境モニタリング

国土の現況を把握するため、雲の少ない衛星画像を用いて全国モザイク画像を更新し、ホームページから公開します。

(2) 湖沼調査

小川原湖等の湖沼調査を行うとともに、その成果を電子国土基本図等を通じて提供します。

3. 地球地図整備

地球地図は、地球環境の解析や政策立案で活用することで地球環境保全等に貢献するものであり、各国の国家地理空間情報当局の協力のもと、地球全体の基盤的地理情報の計画的かつ着実な整備を進めます。また、地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会の活動に積極的に参画します。さらに、地球地図を活用して、我が国の主張に沿った全球地理空間情報を整備します。

測地観測センター

測地観測センターは、我が国の測量に位置の基準を与え、地殻変動の監視を行うため、①電子基準点、験潮場、地殻活動観測場等における連続観測データの収集・解析・監視・提供、②観測施設の維持管理、③これらに係わる企画立案・調整・調査研究、④地震調査委員会の庶務の処理を行っています。

平成 27 年度は、次世代 GNSS に対応し、かつリアルタイムでの地殻変動検出能力を強化した中央局解析システムの整備と、電子基準点の老朽化した受信機の更新を重点的に行います。また、平成 26 年度の補正予算「火山観測強化対策電子基準点機器更新」による火山周辺の老朽化した受信機更新と電源・付帯設備の強化を緊急的に行います。

1. 観測データの活用推進

(1) 様々な研究に利用できるよう電子基準点日々の座標値 (R3) をホームページ (電子基準点データ提供サービス) で公開します。

(2) 関連団体と連携し、情報化施工分野等での観測データの活用を推進します。

2. マルチ GNSS への対応

(1) 国土地理院が開発したマルチ GNSS ソフトウェア GSILIB の利用を促進します。

(2) マルチ GNSS による公共測量を実現するため、公共測量の作業規程の準則の改定に向け検討を行います。

3. 地殻変動の監視強化

- (1) 津波予測支援等のため、全国を対象とする電子基準点のリアルタイム常時解析システムの運用を開始します。
- (2) 火山周辺の電子基準点の老朽化した電源の強化や観測機器及び付帯設備の更新を実施します。

- (3) GEONET の中央局解析システムの高度化のための開発を開始します。

4. 国際観測の推進

国際 GNSS 事業 (IGS) において、国内 4 局、南極 1 局で取得したマルチ GNSS のリアルタイムデータを提供します。

地理地殻活動研究センター

地理地殻活動研究センターは、測量、地理空間情報の整備活用に関連する行政施策の取組を的確に進めていくことを目的として研究開発を行っています。また、地震予知連絡会等各種会議の事務局として運営するほか、他機関が主催する会議への参加や資料提供等の対応を行います。これらの活動に関しては、国内外の関係機関との交流を積極的に進めるとともに、研究成果の発信・流通に努めます。

1. 研究開発

当研究センターでは、4つの基本的課題である

- ①地理空間情報の整備力・活用力の向上
- ②次世代の地理空間情報活用社会の実現
- ③防災・減災
- ④地球と国土の科学的把握

に基づき、以下の7つの特別研究を行います。

- ・衛星干渉 SAR による高度な地盤変動監視のための電離層補正技術に関する研究
- ・地震ハザードマップ作成のための土地の脆弱性情報の効率的整備に関する研究
- ・広域地殻変動データに基づくプレート境界の固着とすべりのモニタリングシステムの開発
- ・干渉 SAR 時系列解析による国土の地盤変動の時間的推移の面的検出に関する研究
- ・GNSS による地殻変動推定における時間分解能向上のための技術開発
- ・空中三角測量の全自動化によるオルソ画像作成の効率化に関する研究
- ・精密単独測位型 RTK (PPP-RTK) を用いたリアルタイム地殻変動把握技術の開発

その他、一般研究として、22 の研究課題を行います。

2. 関係会議の円滑な運営と研究成果の発信

- (1) 関係会議の円滑な運営と参加

地震予知連絡会、海岸昇降検知センター等を運営するほか、地震防災対策地域判定会、地震調査委員会、科学技術・学術審議会測地学分科会、火山噴火予知連絡会に参加し、研究成果の発信を行います。

- (2) 研究評価

研究の実施に当たっては、国土地理院研究評価委員会等による厳正な評価を受けます。

- (3) 研究開発のためのニーズの把握

火山噴火予知連絡会、地震予知連絡会や外部機関からの研究開発に対する社会的ニーズの把握を適宜行います。新規研究開発は、国土地理院内外からの要望に基づいて選定します。

- (4) 外部機関等との連携及び研究成果の積極的な発信

研究の実施に当たっては、共同研究等を通じて外部機関との連携を進めます。研究成果は、ホームページや講演会、学会発表、学術誌等への論文投稿を通じて積極的に公表します。

- (5) 災害発生時の対応

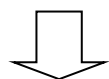
被害地震等が発生した場合には、地殻変動緊急解析を行い、結果を速やかに関係機関に提供します。

国土地理院ウェブ地図「地理院地図」に写真を追加 —戦後の国土の変遷を空中写真でたどれるサービスを開始—

3月25日、国土地理院のウェブ地図「地理院地図」に、すでに公開済みの1970年代以降の空中写真に加えて、1940年代や1960年代の空中写真を追加しました（全国の主要都市のみ）。インターネットで手軽に閲覧できるよう、写真のゆがみなどを補正して繋ぎ合わせ、今の地図に重ねて表示できるようにしました。このことにより、戦後の国土の変遷を空中写真でたどることができます。

表示方法は、まず、「地理院地図」の画面左上の「情報」をクリック、「表示できる情報」を選択します。

次に「地図・空中写真」から「写真」を選ぶと、年代別にリストが表示されますので、この中から見たい年代をクリックすると、その年代の写真が表示されます。



手軽に写真を表示できます



1940年代写真（大阪城周辺）

公開している都市は次のとおりです。

○ 1945年～1950年

東京都特別区及び全ての政令指定都市

○ 1961年～1964年

東京都特別区、札幌市、仙台市、千葉市、横浜市、川崎市、名古屋市、大阪市、堺市、京都市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市

地理院地図の表示例（西新宿の変遷）

1940年代

淀橋浄水場



1960年代



最新

都庁



※青地が今回の追加分

地理院地図では、上記の年代以外に、1974年～1978年、1979年～1983年、1984年～1987年、1988年～1990年の空中写真が表示可能です。

詳細は以下のURLをご覧ください。

http://www.gsi.go.jp/johofukyu/johofukyu_40044.html

（地理空間情報部）

G空間EXPO2015の開催が正式に決定しました！ —Geoアクティビティフェスタの応募方法—

G空間EXPO2015を、日本科学未来館（東京・お台場）において11月26日（木）・27日（金）・28日（土）の3日間開催することが正式に決定しました。

国土地理院では、今年も「Geoアクティビティフェスタ」をはじめ、展示、講演等様々なイベントを計画しています。現在、Geoアクティビティフェスタ事務局では、開催期間中に展示及びプレゼンテーションを行っていただく「プレゼンター（出展者）」を募集しています。応募方法及び応募先は下記をご確認ください。

多くの方のご応募をお待ちしております。

（企画部）

Geoアクティビティフェスタの応募方法

応募方法

以下のサイトから募集要項を入手してください

【G空間EXPO公式Webサイト <http://www.g-expo.jp/>】

応募用紙に必要な事項をご記入の上、郵送又は電子メールにより送付してください。

応募先

E-Mail：gsi-g-event@ml.mlit.go.jp Geoアクティビティフェスタ事務局宛

郵 送：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院

企画部 地理空間情報企画室 Geoアクティビティフェスタ事務局宛

締め切り

平成27年6月30日（火）17時 必着

全ての地方測量部等において、全国の測量成果等の閲覧・謄抄本交付を開始 —地方測量部等においても旧版地図の抄本交付が可能に—

国土地理院では、測量法第27条第3項（測量成果の公表）及び測量法第28条（測量成果の公開）の規定に基づいて、測量成果・測量記録の閲覧・謄抄本交付を行っています。これまで、各地方測量部等（関東地方測量部を除く）での閲覧・謄抄本交付は、管轄区域のみを対象としてきましたが、利用される皆さまのご要望を受け、平成27年4月13日から全ての地方測量部等において全国の測量成果等の閲覧・謄抄本交付ができるようにしました。

○閲覧について

地方測量部等の閲覧所において、「基準点成果等閲覧サービス」及び「地図・空中写真閲覧サービス」により、全国の測量成果等が閲覧できます。

※旧版地図（桎判）の抄本交付手数料

A2判出力

・白黒 390円

・カラー 2,200円

○謄抄本交付について

地方測量部等の閲覧所において、全国の基準点成果等の謄抄本交付や、全国の旧版地図（桎判）の抄本交付を行います。

なお、旧版地図の謄本は、本院及び関東地方測量部において交付しています。

なお、抄本交付は受付窓口のみでの対応となります。

詳細は以下のページをご参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/MAP/HISTORY/touhon150413.html>

（地理空間情報部）

「測量の日」関連行事を全国各地で開催

測量の意義及び重要性に対する国民の理解と関心を一層高めるとともに、地理空間情報のさらなる利活用の促進を図るため、地方公共団体及び関係団体等の協力を得て、6月3日の「測量の日」を中心に全国各地で関連行事を実施します。

国土地理院「地図と測量の科学館」(つくば市)では、6月7日(日)に、『「測量の日」特別企画～遊んで学んで地図と測量の世界2015～』を開催します。この特別企画は、国土地理院が提供している様々な地理空間情報をわかりやすく紹介するとともに、子どもから大人まで楽しみながら地図と測量に関する体験ができる内容となっています。

今年は、32mのパラボラアンテナ「VLBI見学ツアー」や顔の3D画像を作成する「3Dガオー(顔)」、日本列島の「3D分県パズル」など特別企画限定のイベントも用意しております。また、「3Dプリンタ」の実演、「UAV(ヘリタイプの無人航空機)」の展示、開催中の「企画展(戦災からの復興)ガイドツアー」も実施します。

この機会に地図と測量の世界にふれてみてはいかがでしょうか。

入場は無料です。



■全国各地で実施される主な行事

ブロック	主 な 行 事 名	ブロック	主 な 行 事 名
北海道	「測量の日」記念「測量体験学習」 (札幌市立東川小学校 7月7日) 第13回北海道測量技術講演会 (札幌市：札幌第1合同庁舎講堂 平成28年1月28日)	中部	平成27年度「測量の日」中部地区記念行事 測量技術講演会 (名古屋市：ウィングあいち 6/9) 地図教室(中部管内4県の小学校 5月下旬～10月上旬) 測量競技会への取組み支援 (愛知県立稲沢高校 6/16・静岡県立浜松工業高校 8/18) 国土交通 day (名古屋市：名古屋合同庁舎第二号館 7月下旬)
東北	第27回「測量の日」記念 ― 地図と測量のミニフェスター ― (仙台市：スリーエム仙台市科学館 6/6～6/7) 第23回山形県高等学校サーベイコンテスト (山形県総合運動公園 6/3) 奥州市測量フェスティバル(奥州市前沢地区 6/13)	近畿	「測量の日」記念フェア2015 (大阪市：大阪合同庁舎第4号館 6/3) 測量体験学習(京都府京丹波町立丹波ひかり小学校 5/26) 測量体験学習(奈良県大淀町立大淀緑ヶ丘小学校 6/3) 測量体験学習(滋賀県竜王町立竜王西小学校 6/3) 測量体験学習(大阪府内の小学校 10月中旬予定)
関東	「日本水準原点」公開 (千代田区：憲政記念館構内 5/20) 「くらしと測量・地図」展 (新宿区：新宿駅西口広場イベントコーナー 6/3～5)	中国	第20回中国地区測量技術講演会 (広島市：広島県民文化センター 6/18)
北陸	地図パネル展 (①高岡市役所庁舎 6/22～26 ②黒部市ふれあいプラザイベントスペース 7/25～29) 空間情報技術事例発表会(富山市 6/30 予定) 地図教室と測量実習(高岡市立川原小学校 6/3) 測量・地図教室(石川県内の小学校 6/3～10) 地図教室(福井県内の小学校 9月～10月) 験潮場及び電子基準点見学 (柏崎市 新潟工科大学の学生 6/4) 石川県高等学校測量技術コンテスト(石川県 10月上旬) 土木フェア及び産業フェスティバル (新潟県中越地域の3地区 10月上旬～11月上旬)	四国	「測量の日」記念講演会 (高松市：JRホテルクレメント高松 5/20) 「測量の日」記念講演会 (高松市：サン・イレブン高松 7/14) 測量・地図学習会 (四国管内の小学校1校 高等学校4校 5～6月)
		九州	「測量の日」記念技術講習会 (大村市：長崎県建設技術研究センター 6/10) 「測量の日」記念講演会(福岡市内 6月下旬)
		沖縄	「測量の日」パネル展 (那覇市：沖縄県庁1階ロビー 6/1～6/5)

平成27年度（第56回）科学技術週間報告

今年で第56回を迎えた科学技術週間は、科学技術に関し広く国民の関心と理解を深め、我が国の科学技術の振興を図るため毎年開催されており、今年は4月13日から19日までの週間中、つくば市内の各研究機関において施設の一般公開等が行われました。

「地図と測量の科学館」では、14日から19日までの毎日「施設ガイドツアー」を実施したほか、14日に「VLBI アンテナ」の見学、14日と17日に測量用航空機「くにかぜ」の内部公開を特別に実施しました。

科学技術週間中の来館者数は延べ1,303名と昨年度（861名）を大幅に上回る来館者となりました。館内は大人から子どもまで大勢の人で賑わい、この科学技術週間をとおして、「地図」と「測量」を、より一層親しんでいただけたものと思います。



日本列島空中散歩マップを体験



測量用航空機「くにかぜ」下で一休み

（総務部）

4月の報道発表

8日	平成27年3月の地殻変動について	測地観測センター、 地理地殻活動研究センター
10日	防災アプリの公募を27年度も実施 —誰もが活用できる防災地理空間情報の普及促進に向けて—	応用地理部

記事の内容は、国土地理院ホームページ>2015年 報道発表資料

(<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2015.html>) をご覧ください。

6月の主な行事予定

3/10～6/28	企画展「戦災からの復興」
4日	第44回国土地理院報告会
7日	2015「測量の日」特別企画
7日	「測量の日」における功労者感謝状の贈呈
9日	地震調査委員会
15日	火山噴火予知連絡会

国土地理院広報は、国土地理院ホームページ>広報誌>
国土地理院広報

(<http://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/index.html>) に
掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
TEL 029-864-6255
FAX 029-864-6441

連絡先：総務部広報広聴室
国土地理院ホームページ
<http://www.gsi.go.jp/>